

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	すずらの里・理念として掲げています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員に理念として浸透していない。	○ 日々の業務の中で話しているが、月一回のミーティングなどで、理念として浸透させたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念を入りに掲示し来客や家族、地域ボランティアの方々に、理解してもらえるように心掛けている。	○ 広報誌も作成し、家族や地域の方に読んでもらえるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃より入居者、職員などの近所への散歩などの時に近所の方達へ積極的にあいさつをするようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ボランティアの積極的な受け入れ、夏まつりなどの行事のチラシの配布をしている。	○ 運営推進会議などを行い、近隣の方々とつながりを強くしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所としては、施設の外に 対するアピールを考へてはいるが また、実践的ではない。	○	近隣の方との交流でグループホーム に対する理解を深くしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、外部評価を行い、 指摘された部分の改善、弱点、 の強化に努めるようにしている。	○	管理者だけでなく、職員に対 しても外部評価等の意義を 理解してもらい、よりよいサービス が現場でも行えるよう努めた。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催する準備をすすめているが、 都合が合わず実際に行うまでには 至っていない。	○	定期的な運営推進会議を 開催し、意見を伺い、それを生か して地域に根付く施設を目指 したい
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定調査や、手続き等で接する 機会がある際には、お互いの 状況を伝え合ったりしている。	○	積極的に機会をつくり、市町村 からの意向や施設からの意向を 伝えるなどして、意見交換を行 いたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加する機会が少なく 職員に浸透するまでには、 至っていない。また現在活用 していない。	○	研修(施設内も含め)に参加し、 知識を身につけたい。 また必要があれば利用したい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内でのミーティングでもテーマ として取りあげ職員への理解に 努めている。日頃より弱者に目を向け 身心共に異常が無いかが気配りをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて、利用者、家族等に説明を行い納得するまで何回も説明をします。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム苦情相談窓口を設け、体制を整えています。また、これは重要事項説明書に記載されている。	○	利用者の意見を聞く事が大切にしては負けて、あつそかにたがりがちなので、時間には追いつかないサービスを目指す様に努力したい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭面では月に一回おこずかいの残高を郵送にてお知らせしています。その際必要があれば状況を報告するようにしています。健康状態などに変化がある時には電話でお知らせしています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に面会に訪れた時に色々なお話しを聞く事もあります。特別な時間は設けていません。	○	グループホームでの家族参加のイベントなどの交流を通じて意見や希望を聞けるようにする。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、ミーティングを設けてその時に意見を出し合っています。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	人員が必要な時の職員の確保は、職員の協力もあり、柔軟に対応しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は特別な場合以外は無しです。 離職を抑えるため割合に働きやすい職場環境にするように努めています。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は慣れにまかせての仕事が多く向上心を持たせるために毎月、一つの課題を皆人で考える機会をつけた。	○	職員一人一人が専門職だという自覚を持てるように知識の向上を目指したい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列の病院、施設とは、交流は有るがサービスの質の向上をさせていくまでの話は出ない。	○	他のグループホームとの交流を幅の広いサービスが生まればと思う。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常日頃よりミーティングを行ったり職員の態度などの変化に気をつけている。必みとしては、個人的に話しを聞くようにしている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月一回のミーティングで勉強会をやる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に実態調査を行い、本人家族から話をきくようにしている。また施設見学をしてもいい不安であれば慣れるまでの当日中の体験を可能にしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に施設見学をしてもいい、不安を解消するための事前の相談を受けています。月一回の請求書送付や、おこづかいの収支報告の際に状況を説明した手紙を書いています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の意向を伺い、また本人の体の状況を把握して何が支援できるか見極め、むずかしい場合には他のサービス利用の検討も考えていたように伝えることもある。 本人・家族・ケアマネジャーと連携を取り適切なサービスに	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	と心掛けている。 施設見学や日中の施設体験を通して馴染めるように工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が出来る事は自分で行うようにしています。 生活の場なので、利用者の足りないケアをおまねい、家事の手伝い等もしてもら	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族をチームの一員として考え、帰宅願望が強いや病院受診など職員よりも家族の方が良い場合などは、連絡し協力してもらう。	○	家族との連絡をより多くするようにし、共に支援するようにした。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の本人と家族関係を理解したよでの家族の協力を求めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でも入居前より馴染みがあり会う事を本人が希望すれば、外出などをする時は協力する。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者により性格、個性、病歴などが違うと普段より呼びかけ理解を求め協力してもらう。	○	一人一人の理解をより一層に深めていき、共有する時間を楽しい時にしたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	夏まつりなどのイベント事のチラシなどは配布している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えがある時は、ゆっくり話を聞くようにしている。可能な限りの希望を受け入れようとしている。	○	管理者に任せってしまう事が多く、職員は忙しさに見過す事がある、余裕の持てる介護を見指したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスがその場限りの事が多く先の見えたサービスが不十分に思える。	○	一人一人の個人に目を向けられるように努力したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常日頃より一人一人の心身状態の観察に努めているが、まだ不十分な部分もある	○	居室内に長く居る入居者は、つい、見過しかちである、気を配りたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	取り組みとして不十分	○	本人本位でなおかつ、家族の意見も反映した介護計画の作成。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4	○	作成しても見直しを行うことが少ないので定期的な見直し、また、柔軟に計画を作成し直したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記入をしているが、記入の仕方が、気づきかまた「不十分に感じる、	○	もっと気づきが多くなってほしい、何の為の記録かを良く理解してほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	機能性を生かされておらず、もったいない状況。	○	ご家族などの意見、意向も伺い、支援の選択肢をふかしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接する特養、警察署、消防署、などには協力していたらけるよう声かけしてある。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在希望がたないのでよく分からない。	○	ご家族に他のサービス利用についてなど情報提供に努める。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働する機会はない。	○	定期的に情報交換する機会を設けたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>本人、家族の不安を無くすように、かかりつけ医との連携を強くしていきたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>認知症だと見ず易い症状に気がつけ、より早い対応を心掛けたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>グループホームは医療面の知識が不足になりがちなので訪問看護師との協働で利用者に不安の無い支援をしていきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>連携先の病院と情報を多く交換していきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化や終末期に対する職員とその専門職としての心構えをもっと強く持てるようにしたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>職員の緊急時の対応を技術面、精神共に向上させたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	入居者の事前情報は、関係者間に 流しているが、十分な話し合いを持つ 時間が少ないので、ダメージが有る 場合がある。	○	事前情報をもとに十分に話し合い 関係者の協力のうえ入居者のダメージを 少なくしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	プライバシーについては、毎月の ミーティングで注意を促している。 個人情報への取り扱いは、注意を 払っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	本人の希望を聞いて、自己決定を 促すような言葉かけをしているが、まだ 充分ではない。	○	管理者、職員共に自己決定を 重視する支援をしていきたい。 重要性、意義をミーティングなどで 職員に周知させた。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	時には職員のペースになりがち だが、入居者に合わせた支援を心掛 けている。	○	より多く、その人に合わせた働きかけ をして、一人一人のペースを大切に していきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで けるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	2ヶ月に一回理容師に来て、整髪、 カット、なびをしてもらうが、希望に 合わせて、白髪染めなどは、職員が行う。 また、化粧品などの購入の支援もしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前のテーブルセッティングなどは、日常的に入居者がしている。 食事の準備も可能な限りお願いしている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこは本人管理で職員目の届く場所での約束で吸っている。 お酒は機会があれば飲酒している。 飲み物、おやつについては希望をきいている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつを使用しない努力をしている。 時間を決めてのトイレ指導だけでなく、随時介助、排泄の失敗の時の職員の配慮など、気配りをしている。	○	排泄に対する職員の配慮が、足りない所があるので、細かい配慮が出来るようにしたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、希望者は入浴可能にしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の過ごし方や、昼寝の時間の長さなどを考え、生活のリズムを整え夜間は良眠できるように心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる人には、火皿や掃除、洗たく物など、たみなどを協力してもらい、お天気のいい日には、気晴らしに散歩に出たりしています。	○	本人の何をしたいかを引き出せばより張り合いや喜びが生まれると思う。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設側でしている。 機会があれば職員と一緒に買い物に出るか、本人が支払いのできる人は、本人が払うようにしている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日などは、近所にお散歩に出たりする。 外での活動を増やすようにしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一回は全員で外出をする。 季節に合わせて色々と職員が計画している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関ホールに公衆電話が置いてあり自由に電話をすることが出来る 手紙も希望があればいつでも出す事が出来る。請求書送付時にFAXマシーン同封したりFAXする場合もある。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	外からの来客は、いつでも自由に施設内に入る事が出来る。希望で居室内でも又玄関ホールでもイスが置いてあり話しをすることが出来る。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由な行動にしています。 毎月のミーティングで身体拘束の禁止を学び、注意喚起している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に鍵をかけない。 居室内は本人が内側より鍵をかけている人はいる。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者への気配りを常にしているが、日中の活動が活発な時は見落としもある。夜間は夜勤者が定期的に巡回している。	○	日中の入居者の様子の見落としがないように、より一層の努力したい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の何か必要かを見極めて必要な物は工夫を して て置いたり持たせたりしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日常的に話したり、一通りの勉強はしていると思うがまだ充分とはいえない。	○	勉強の機会をつくり、知識の向上と共に対応の仕方を学びたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応はデスクに張ってあり職員にみえるようにしている。訓練は充分とは言えない。	○	緊急時に備えて訓練を定期的に行いたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	働きかけをしておらず不十分	○	警察署、消防署だけでなくるがの際に地域の方々に理解と協力をしていただけよう努力したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについては家族に説明し理解と同意してもらうよう努めている、また家族の意向も伺い家族の納得の上で自由な生活を送ってもらう。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バウタルを測る以外、食欲、顔色、便秘の有無などを情報として職員間で共有している。変化には早く対応し病院受診するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬箱をつくり薬を分けている。誤薬のないように常に注意している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスの良い食事と適度な運動をしてもうように心掛けている。 水分摂取は注意を払ってもらう。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人で出来る人は声掛けしている。 一人では無理な人には介助し行うようにしている。	○	口腔ケアがあるにもかかわらず、なりやすい意識を促したい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	義歯などで、噛めない人は、小さくするなどして食べやすくしている。 嫌いな物のかわりの物を用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成しマニュアルがある。 また新入社員などが目を通しづかい所にある。感染症が流行している時は、改めて全員に周知する。	○	日頃より 外出から帰ってきたらうがい、手洗いを徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に行き必要な物を必要な量だけを買うようにしている。 ふきん、まな板などは毎日消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	犬を飼ったり、畑や花を植えるなどして家庭的な雰囲気づくりには心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式のカウンターであり、いつも、リビングに居る入居者が見える。リビングに鉢植えなどを置いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにたばこを吸えるスペースを作ると共にソファを置いてくつろげるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居するときに使い慣れた家具など を持ち込んでいる。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	常に換気扇は回すようにしている。 天気の良い日は窓も開けて空気の 入れかえをしている。 エアコンで温度調節はしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	トイレ、風呂場、廊下に手すり をつけている。建物内部はバリアフリーで ある。廊下は広く取り車いすなど でも通り易くしている		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	排泄、食事、衣類の着脱など、時間 を掛ければ自分で出来る人は、(見守り) ながさなくてもいい。	○	できる事が、分かりやすく、介助に 手を出してほめる事がある。観察力を 身につけたらいい。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関前にベンチを置き天気の 良い日は外でお茶を飲むなど している。玄関前の駐車場を利用して 歩行運動などをしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で入居者、職員がお互いに個性を認め合い、また、入居者の気持ちを大切に、
 退屈しない毎日を送れるよう援助しています。